

第2回「新興国の持続可能な成長と環境インフラ整備

—求められるわが国の経験、技術、人材—

日本は1960年代、70年代、急速な経済成長で種々の産業活動が進む一方、狭い国土で大きな人口を抱え高い人口密度であったことから、いわゆる公害が大きな社会問題となり、それに対処できる高度な技術が求められるとともに、それに強い使命感をもつ多数の学生・研究者が衛生工学・環境工学の分野に集まり、日本の衛生工学、環境工学を世界のトップレベルへと引き上げました。この公害との闘いの時を経て、現在日本は、世界有数の安全快適な生活環境が創造されています。

一方、近年の大学生などの若い世代には、生まれた頃から快適な環境で育ったものが多く、安全、衛生的な環境の創造に関して関心が乏しくなり、中には、環境工学やその関連分野ではあらたな発展が望めないように考えている人が出始めております。しかし、近年の地球温暖化による異常気象現象の多発、それにもなるとともに重みを増してきた水・食料・資源の遍在や枯渇の問題、加えて不安定な国際秩序による食糧や資源確保への不安、そして日本がこれから向かうことになる超高齢化・人口減少社会の在り方、などの多数の問題を考えれば、今のまま安全・衛生的な環境が維持されることはなく、コンパクトな循環型都市の創造など、新たな環境工学への発展が潜在的に大きく求められています。つまり、100年先までの日本そして世界を創造していく上で、環境工学は今後も重要な使命を持ち、発展が期待される分野であり、それを若い世代にアピールし、優秀な人材を確保していくことが必要です。このため、京都大学の環境工学関連部局・専攻が共同でシリーズシンポジウムを開催し、各回、今後、環境工学において発展・変革が望まれる分野、重要性を増してくる分野を中心に、広く社会、そして若い世代に環境工学の使命・重要性をアピールし、環境工学分野で働く技術者らにエールを送ることを考えました。

第1回シンポジウム「次世紀へ生き残るために、地球温暖化の先にある世界 - 高度循環型低炭素社会実現への挑戦! -」に続き、今回、「新興国の持続可能な成長と環境インフラ整備—求められるわが国の経験、技術、人材—」と題し、第2回シンポジウムを開催します。人口、経済の発展が目覚ましい新興国、とくに、急速に成長するアジアは、都市問題や環境問題に大きな課題を抱えています。そこで第1部では、アジア開発銀行（ADB）である中尾武彦総裁をお招きし、アジア経済とインフラ整備の動向とADBによるインフラ支援の展望について基調講演いただきます。また、これまで経済成長と環境問題の調和を支えてきたわが国の上下水道事業や廃棄物対策などの環境インフラの経験や技術、人材が、新興国の成長を支える上で、必要となっている環境インフラの整備と運営に貢献できると考えられます。そこで、第2部のパネルディスカッションでは、この視点から、ますます大きくなると期待される環境工学の役割を議論します。多くの方々の積極的な参加を期待いたします。

京都大学環境工学関連部局・専攻